

新市立高等学校基本設計について

1 概要

平成30年度に開校を予定している新市立高等学校の基本設計が、平成26年3月に完了しました。

概算事業費は約180億円を予定しており、今後も関係者の方々と協議を重ね、引き続き、実施設計、整備工事などを進めてまいります。

2 基本設計のポイント

市立3校の歴史と伝統を踏まえつつ、これからの時代に対応しながら本市の教育のリーディング校として、近隣のSKIPシティなどとも連携し、立地特性を生かした施設となることをコンセプトにしています。新校における施設配置の大きな特徴としては、新たな導線として、高校生活における様々な活動を通じて、互いに交流することで賑わい、生徒一人一人の記憶に残る場となるように、(仮称)中央広場から東側に(仮称)ラーニングストリート、西側に(仮称)フィジカルストリートとして東西を貫く新たな道(仮称『キャンパスロード』)を配置しています。また、校舎棟の内部は2階から最上階までを吹き抜け空間とし、その上部に設置した膜屋根によって、明るく開放的なスペースが創り出されています。

(1) 敷地

第1校地となる現川口総合高校の敷地のほかに、その南東側に位置する現上青木公民館の敷地、北東側の廃道と貯留槽が設置されている敷地、および北側の三角地を含めています。

(2) 充実した施設

快適な学習環境としての施設を整備することを目標とし、運動施設においても大アリーナや野球専用グラウンド(第2校地)などを整備します。第1校地のグラウンドは、部活動の活性化、近隣への砂塵対策、校舎内美化のために人工芝を導入します。

(3) 一足制(下足を中心とした学校生活)

大規模校となる新校にとって、一足制を取り入れることにより、スペースの有効利用が可能となり、非常時における避難も容易となります。

(4) 空調設備

普通教室、特別教室、管理諸室等は冷暖房を完備します。

(5) エコスクール

膜屋根による自然採光に加え、雨水・井水・地中熱を活用するなど、周辺環境に配慮し、地球高温化防止を推進しながら、さらにライフサイクルコスト削減を図る施設を整備します。

(6) 地域の避難施設としての機能

災害時における避難施設としての機能を備えるように、防災備蓄倉庫、マンホールトイレ等を整備します。

(7) 事業費の削減策

国土交通省の補助事業である「地方都市リノベーション事業」の対象地区として採

択されたことにより、国庫補助金の獲得に向けて協議を進めています。その他、人工芝の導入を予定していることから、「スポーツ振興くじ助成金（toto）」の申請や川口市教育施設整備基金などの充当を計画しています。

3 今後のスケジュール（案）

| | |
|----------------|-----------------------------------|
| 平成25年度（2013年度） | 基本設計・新市立高校開設検討委員会の設置 |
| 平成26年度（2014年度） | 実施設計 |
| 平成27年度（2015年度） | 実施設計・新校工事着工 （仮称）新市立高校開設準備委員会設置 |
| 平成29年度（2017年度） | 新校舎竣工 |
| 平成30年度（2018年度） | 新校開校 |
| 平成32年度（2020年度） | アリーナ棟竣工 |
| 平成33年度（2021年度） | 新校工事完了 |

4 基本設計の内容（別添 資料）

※内容については、今後、実施設計を進めていく中で、変更することがあります。

（問い合わせ先） 学校教育部学務課新市立高校建設担当 電話 048-258-1657